

東京センチュリーの概要

## 東京センチュリーの歴史と成長の軌跡

## V字回復を達成し、新たな成長軌道へ

## 各事業分野において「中期経営計画2027」とその先を見据えた成長投資を強化

- 2024年度の当期純利益は**853億円**と、2期連続で過去最高益を更新
- 資産効率(ROA1.3%)および資本効率(ROE9.0%)改善に向けた取り組み強化を推進

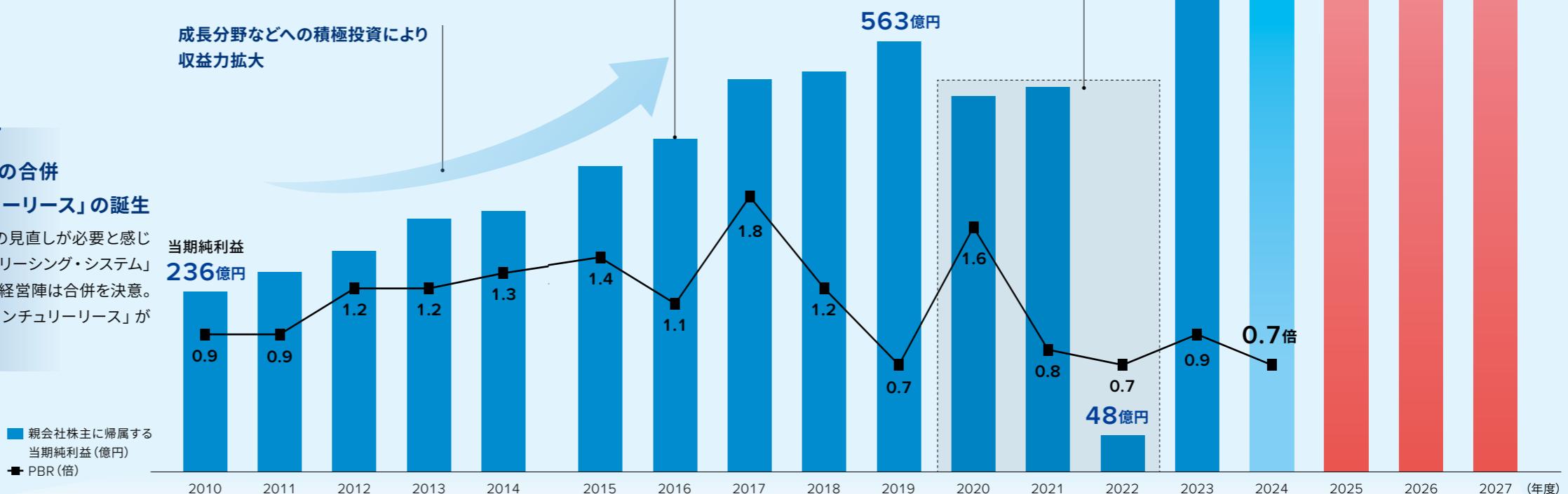
**1969**  
旧センチュリー・リーシング・システム  
・伊藤忠グループが有する多様なビジネスノウハウ  
・情報通信関連機器を中心としたリースサービス

**1964**  
旧東京リース  
・旧第一勧業銀行の広範な顧客網  
・優良顧客とのパートナーシップ戦略の源流

**2009-**リース業界大手の合併  
「東京センチュリーリース」の誕生

事業ポートフォリオの見直しが必要を感じた「旧センチュリー・リーシング・システム」と「旧東京リース」の経営陣は合併を決意。2009年に「東京センチュリーリース」が誕生しました。

成長分野などへの積極投資により収益力拡大



**2012年度 | 環境インフラ事業分野**  
京セラと太陽光発電事業推進に向けて「京セラTCLソーラー」設立

**2013年度 | オートモビリティ事業分野**  
「ニッポンレンタカーサービス(NRS)」を連結子会社化  
法人向けオートリース会社の「日本カーソリューションズ(NCS)」を連結子会社化

**2016年度 | 國際事業分野**  
米国大手独立系リース会社の「CSI Leasing(CSI)」を連結子会社化

**2018年度 | スペシャルティ事業分野**  
神戸製鋼所の不動産子会社である「神鋼不動産(現:TC神鋼不動産)」を連結子会社化

**2019年度 | スペシャルティ事業分野**  
米国大手航空機リース会社「Aviation Capital Group(ACG)」を連結子会社化

**2020年度 | スペシャルティ事業分野**  
国内大手PEファンド「Advantage Partnersグループ(AP)」へ出資

**2020年度 | 國内リース事業分野**  
NTTファイナンスのリース事業およびグローバル事業の一部を分社化し、「NTT・TCリース」を設立(持分法適用関連会社)

**2023年度 | 環境インフラ事業分野**  
英国大手独立系資産運用グループ・シローダーのグループ会社と共同で英国内の稼働済み太陽光発電所34カ所(303MW相当)取得

**2023年度 | 國際事業分野**  
NTTグループが運営する米国シカゴにおけるデータセンターへ出資

## 「中期経営計画2027」で目指す姿

2027年度	
当期純利益	<b>1,000億円</b>
ROE	<b>10%</b>
ROA(総資産純利益率)	<b>1.4%</b>

**今後の事業ポートフォリオ**  
成長事業へのポートフォリオの入れ替えを推進し、収益性が高いサービス・事業の比率を上げて資産効率を高める方針